【学位論文審査の要旨】

１）論文審査

本研究は、インドネシアにおける自閉スペクトラム症児者への作業療法介入における、作業発達に対する治療的関係のモデルを構築することを目的としたものである。近年、自閉スペクトラム症児者に対するリハビリテーションのニーズは世界的に高まっており、インドネシアでは人口の 0.36%に自閉スペクトラム症があるとされ、作業療法の対象としても急増している。また、インドネシア国内、約 1700 名の作業療法士のうち約半数以上が発達障害領域に勤務している現状から、インドネシアの作業療法士が、自閉スペクトラム症児者に対して支援を提供する際に適切なモデルを明らかにすることは非常に重要なテーマである。

本研究の副論文では、インドネシアにおける自閉スペクトラム症児者に対する作業療法の現状と課題を明確化するため、アンケート調査を実施した。その結果 100 名の作業療法士から回答が得られ、結果より、インドネシアの自閉スペクトラム症児者に対する作業療法は、感覚統合理論に基づいた感覚入力や遊びを用いた支援が一般的に行われており、身体機能やパフォーマンスの向上を目的としているものが多い一方、作業そのものの発達に焦点を当て、ライフスパンを見通した介入は行われていないことが明らかとなった。そこで主論文のテーマである、「クリックから始まる」作業発達に焦点を当てた治療的関係性のモデル構築に至った。主論文では、自閉スペクトラム症児者に対する支援経験 10 年以上の作業療法士 19 名を、10 名と 9 名の 2 グループに分け、各 2 回のフォーカスグループインタビューを実施した。逐語録化したインタビュー内容の分析からモデル構築に至るプロセスには、グラウンデッド・セオリー・アプローチ（Charmaz, 2014）を採用した。その結果、「Initiation」「Attachment」「Accompaniment」「Occupational engagement」の 4 つの概念が生成され、自閉スペクトラム症児者に対する作業療法の実践モデルとして構築された。論文タイトルにある「Click」という言葉は、介入の最も初期段階である「Initiation」のステージにおいて、初対面の対象児者と作業療法士が関係性を構築する際に鍵となる時空間的な瞬間の側面を捉える中心的概念として生み出されたものである。自閉スペクトラム症児者は、一般的に言語、非言語、感覚、情緒、社会的コミュニケーションに難しさがあり、それは両者間に存在する見えないフィルムのように感じられるも、Click が成功することで次なるプロセスへと治療的関係性の歩みを進めることができると論述した。これまで多くの作業療法士が直面し、介入の行方を左右してきたこの局面を Click という言葉で表現し、そこを起点に作業発達を支援し、作業エンゲージメントに繋げる本モデルは、自閉スペクトラム症児者に対するリハビリテーション介入において、斬新かつ有意義である。

主論文と副論文からなる一連の学位論文は、いずれも目的が明確で、適切な方法が選択されており、倫理的な配慮も十分になされている。今後、本研究で見出されたモデルを実践の場に適応し実証する必要性はあるが、モデルそのものは非常に簡潔かつ正鵠を得ており、発達障害領域の作業療法の推進及び作業療法科学の発展に大きく寄与する点が評価で

きる。

２）最終試験

最終試験では、モデル開発の目的や意義、今後の活用法などに関する質問があり、申請者はこれに非常に真摯な態度で、的確かつ明確に回答した。また、本論文に関連した基礎学力として、インドネシアにおける自閉スペクトラム症児者に対する作業療法の現状と課題、自閉スペクトラム症児者含め発達障害児に関する幅広い領域の知見を十分に有し、理解していると考えられた。さらに今後は、開発したモデルを作業療法実践の場に適応すること及び、より適切な英語表現の探究にも着手すると述べており、さらなる研究の発展が期待される。また、アドバイスにも誠実に耳を傾ける姿勢が認められ好印象であった。

以上より、本論文は作業療法科学の発展に貢献する有用な成果を示しており、学術的に価値があると評価できる。したがって、申請者が博士の学位（作業療法学）を授与されるに相当すると判断する。